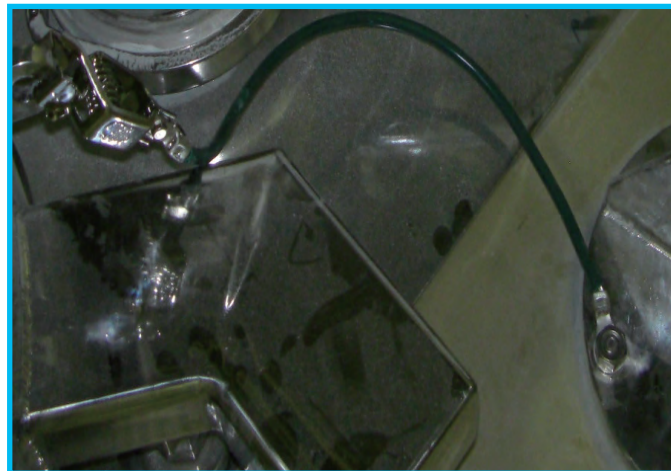
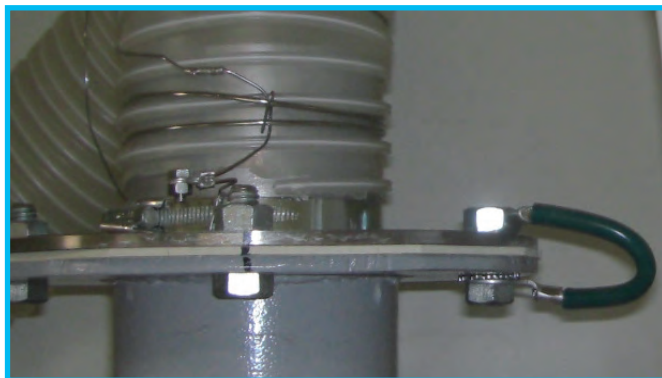
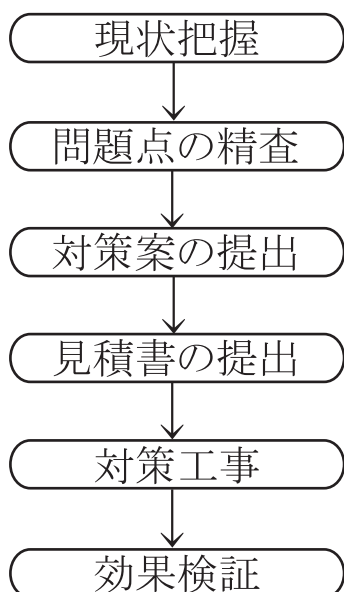


# ▶ 静電気対策を行うと！

- 何より安全で、安心して作業ができる
- 廻りがきれいな職場に変身する
- 材料の流れがスムーズになり、省エネにつながる



## Solution Flow

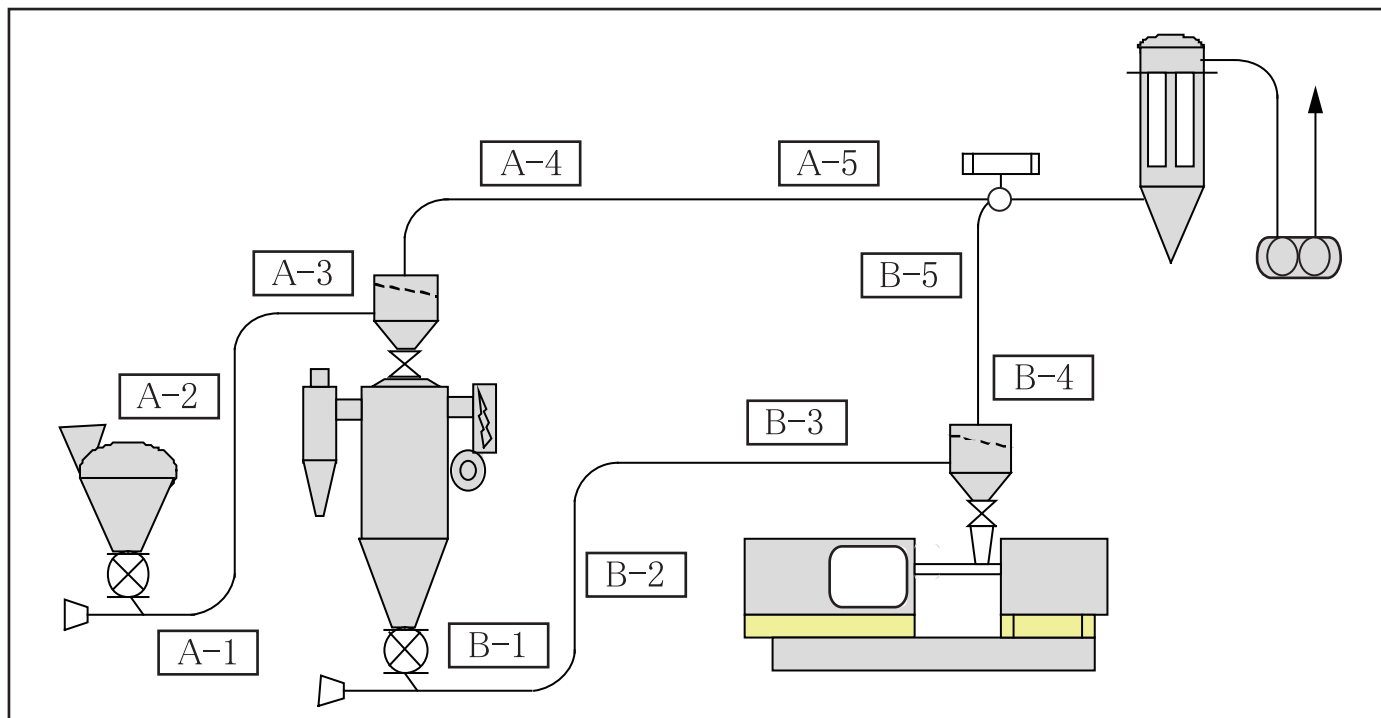


- ・ 静電チェッカーを用いて帯電箇所を特定する。
- ・ 使用している素材及びアース設置を確認する。
- ・ 写真撮影にて、問題箇所を明確にする。  
(機械系・電気系の技術者による現地調査)

- ・ 使用している素材の変更等が可能かどうか？
- ・ メンテナンスを考慮したアース接続方法とする。  
(対策案を盛り込んだ調査報告書を提出)

- ・ 静電チェッカーで、帯電箇所の無き事を確認する。

# 静電気対策実施例



静電気対策実施前後の帯電電位比較（配管・ホース部）

【単位：KV】

	A-1	A-2	A-3	A-4	A-5
調査時	7	25	35	-0.2	0
対策後	-0.1	0	0	0	0

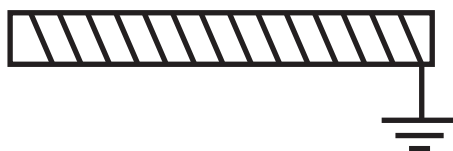
	B-1	B-2	B-3	B-4	B-5
調査時	-26	-33	-39	-3	-1
対策後	0	-0.1	-0.1	0.2	0.1

● ホース材質の変更

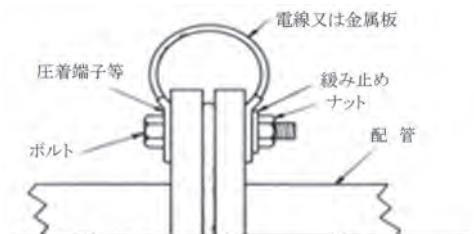
塩ビホース→ 静電防止効果のあるホースを使用。

（外周を銅線でコイル状に巻き、先端を接地する）

透明ホース→ アース線入りホースを使用し、接地線は確実に接地する。



● 各機器や配管フランジなどは、アースボンドを取り付け、導通させる。



● 各機器から建屋鉄骨まで、アース線を取り付け、接地を行う。

（アース線の抵抗値は100Ω以下）

